

# 経営比較分析表（令和5年度決算）

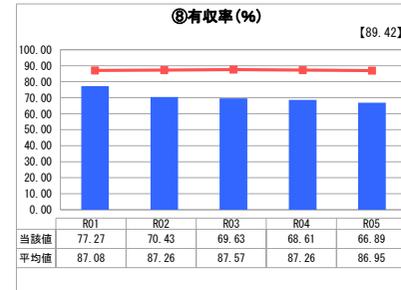
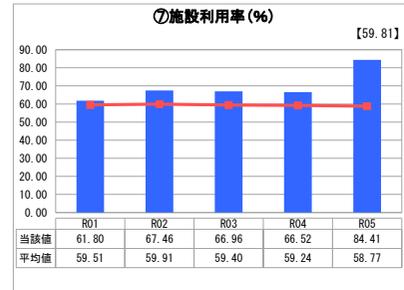
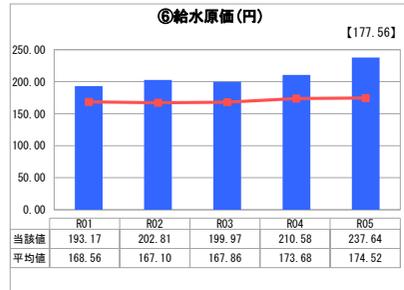
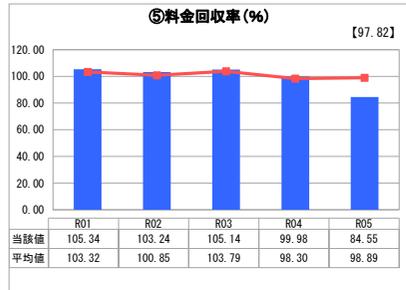
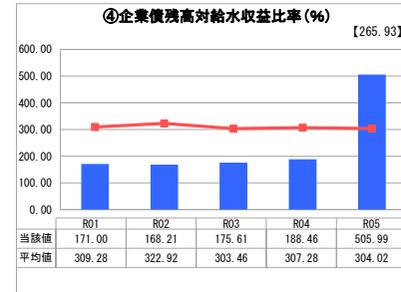
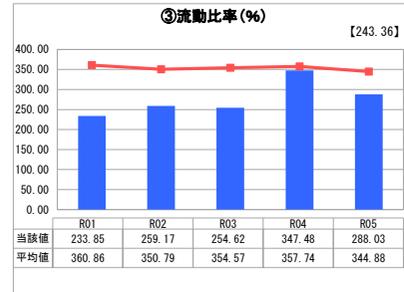
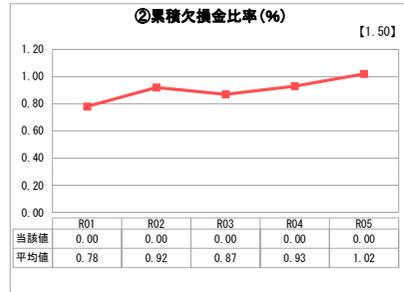
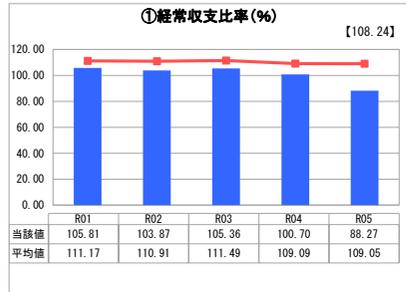
福岡県 田川広域水道企業団

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	その他
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり客産料金(円)	
-	80.95	97.08	4,459	

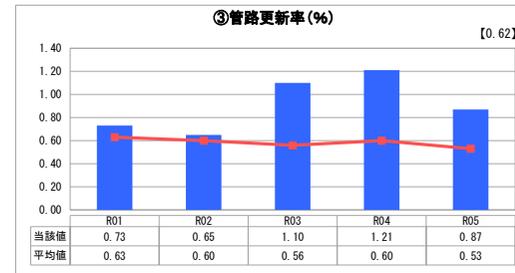
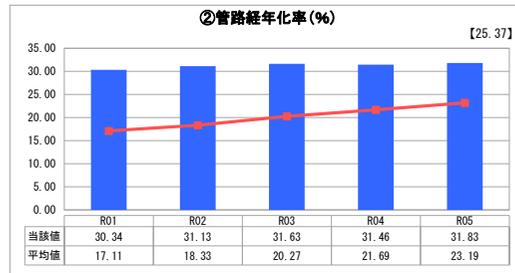
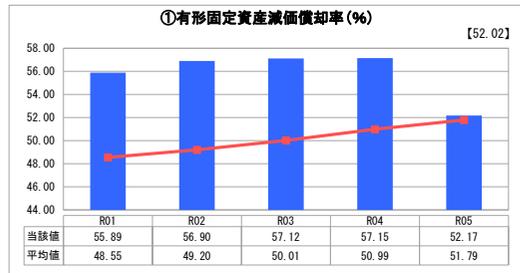
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
-	-	-
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
86,997	90.53	960.97

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和5年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率  
管路更新等による固定資産除却に伴う資産減耗費の増及び  
労務単価、資材費等の物価高騰による維持管理費の増等による  
費用の増により、単年度赤字を示す100%未満であり、  
類似団体平均を下回っている。  
②累積欠損比率  
累積欠損金は発生していない。  
③流動比率  
短期的な支払能力があることを示す100%を超えているが、  
類似団体平均を下回っている。  
④企業債残高対給水収益比率  
事業統合に伴う新浄水場建設等により企業債残高が増加した  
ことにより、比率については大きく上昇している。  
⑤料金回収率・⑥給水原価  
料金回収率が減少した要因は、給水原価の上昇に伴うもので、  
またる原因は管路更新等による固定資産除却に伴う資産  
減耗費の増及び労務単価、資材費等の物価高騰による維持管理  
費の増が給水原価を上昇させていると考えられる。  
⑦施設利用率  
全国平均値や類似団体平均値に比べ高い状況であり、効率的  
に施設が利用されているといえる。今後も事業統合のスケ  
ールメリットを活かし効率的な施設の利用に努める。  
⑧有収率  
全国平均値、類似団体平均値に比較して大きく下回っている。  
国の交付金を活用して行っている運営基盤強化等事業にお  
いて、老朽管の更新を進め改善に努める。

### 2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率・②管路経年化率  
いずれも類似団体平均値を上回っており、老朽化が進んで  
いる状況である。  
③管路更新率  
全国平均値、類似団体平均値をわずかに上回っている。今  
後も管路更新計画に基づき、国の交付金を活用して行ってい  
る運営基盤強化等事業により計画的な管路更新を行ってい  
く。

## 全体総括

平成31年4月1日に1企業団の用水供給事業及び4市町の  
末端給水事業について経営の一体化を行い、令和5年4月  
1日に事業の統合及び料金改定を行った。  
今後、給水人口の減少に伴う厳しい経営状況となることが  
予測されることに加え、老朽化の進んだ施設の更新等、多額  
の費用を要する更新事業に対し、国の交付金制度の活用など、  
事業統合のメリットを生かして、「健全な事業経営の継続」と  
「住民負担の増加の抑制」を図り、効率的かつ安定的な水道  
事業の経営を進めていく。